

日本語と日本文学

第 68 号

-
- 紀伝道文人の家門意識と教育
—愚息・鞭撻の両語をめぐって— …………… 出口 誠 (3)
- 「二十六夜」における鼻の機能
—アイヌ文化の「送り」との類似— …………… 能村 将之 (15)
-
- コレ・ソレ・アレの使用実態から捉える
対面会話の話しことばと携帯メール・LINEの「打ちことば」
…………… 落合 哉人 (左 27)
-

令和4年8月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

- 一、投稿資格を有するものは、本学会の会員とします。
- 一、投稿論文は四百字詰原稿用紙四十枚（二万六千字）程度。ワープロ原稿の場合はハードコピー二部に電子媒体ファイルを添付してください（原稿と電子媒体は原則としてお返しいたしません）。
- 一、投稿は、毎年二月末日までに、編集委員会あてに送付してください。
- 一、投稿論文の採否は、編集委員会で指名する複数の査読者による審査をへて、編集委員会で決定して投稿者に報告します。
- 一、本誌の論文は、筑波大学附属図書館のつくばリポジトリに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8717茨城県つくば市天王台一丁目一―一

筑波大学人文社会系矢澤真人研究室

筑波大学日本語日文学会

『日本語と日本文学』編集委員会

（編集委員）石塚修（委員長）・大倉浩・

勝田光・沼田善子

投稿案内

本学会誌は、本学内関係者のみならず会員の多くの方たちからの投稿をお待ちいたしております。日本文学・日本語学・応用言語学・国語教育学の幅広い分野から投稿いただけます。海外からの投稿も積極的にいただいております。

査読については、学外の各分野で学術的な活動を行っている卒業生などを中心に依頼し、編集委員会で、その結果、採否・修正などを決定しております。

投稿の受理に際しましては、会員としての登録と継続の確認を前提といたしますので、あらかじめご了承ください。また、編集の際に支障をきたす可能性がありますので、連絡先などもメールアドレスのみではなく、現住所・電話番号など確実にお知らせくださいますようお願い申し上げます。

編集後記

第六十八号をお届けいたします。今号は投稿が前号と比較すると少なめでした。学内外での査読において、温かなご助言・ご指導をいただきましたことを、この場をおかりしまして厚く御礼申し上げます。

昨年は、高校における国語科の内容が変更されたなかでの教科書採択で、文学教育のあり方についても議論がなされました。東京師範学校・東京高等師範学校・東京教育大学の伝統は、文学と語学、そして教育学との豊かな連繋をもった教育内容で、優秀な中等教育教員の人材を育成し、日本社会全体に貢献してきたことにあります。その伝統を着実に引き継ぎ、日本社会全体に対して貢献していくことが、危機が叫ばれている人文社会系の学問の大切な責務だと考えます。本誌は、大学での研究者のみならず、教育現場からの研鑽の成果にも開かれていますので、ふるってご投稿ください。

（編集委員長 石塚）

令和四年八月三十一日印刷

令和四年八月三十一日発行

〒305-8717茨城県つくば市天王台一丁目一―一

筑波大学人文社会系

編集・発行 筑波大学日本語日文学会

代表者 矢 澤 真人

印刷所 第一印刷株式会社

☎〇二八二（三一）一五五一